

平成 23 年度 多自然川づくりの取組事例

平成 23 年度多自然川づくり中国ブロック会議において、各機関より下記の多自然川づくりの取組事例について報告があった。

機 関 名	取 組 事 例
	概 要
島根県 とほくぶかせんか 土木部 河川課	<p>神西湖（十間川）整備における水環境保全に関する取り組み</p> <p>神西湖は二級河川十間川に属し、日本海より上流約 1.8km に位置する面積 1.35km² の汽水湖である。下流差海川では計画流下能力確保のため河床掘削等を行い、神西湖では貯留機能を最大限活用するため湖岸堤を新設する。</p> <p>近年、神西湖では湖水の高塩分化及び富栄養化による底質のヘドロ化などに伴う水環境の悪化が懸念されている。</p> <p>このことから、湖岸堤の整備にあたっては、シジミやヨシの水質浄化機能を生かした計画としており、その取り組みについて紹介する。</p>
国土交通省 いずもかせんじむしよ 出雲 河川 事務所	<p>大橋川改修に係る環境モニタリングについて</p> <p>斐伊川水系大橋川沿川には資産が集中しているにも関わらず洪水に対して脆弱なため、流下能力を改善する「大橋川改修事業」が進められている。この箇所の汽水環境保全の重要性を踏まえて現地調査を実施し、予測・評価及び保全に関する事項の考え方を「環境影響調査 最終とりまとめ」としてとりまとめた。今回、最終とりまとめに基づき水環境や動植物・生態系への影響を確認するためモニタリング計画を策定したので紹介する。</p>
国土交通省 おかやまかせんじむしよ 岡山 河川 事務所	<p>吉井川（瀬戸地区）自然再生について</p> <p>吉井川水系には国の天然記念物に指定されている「アユモドキ」が生息しているが、近年、その個体数は著しく減少している。その主な原因は、開発等により、アユモドキの生息環境が悪化してきているためと考えられる。そのため、岡山河川事務所では現在、アユモドキが生息できる良好な生息環境の整備に取り組んでいる。整備内容としては産卵場整備、水路整備（魚巣ブロック設置）を行っているところである。</p>
広島県 とほくきよくかせんか 土木局 河川課	<p>大津恵川の多自然川づくりについて</p> <p>大津恵川では、平成 22 年 7 月 16 日の梅雨前線の局地的な豪雨によって、流域で土砂崩れが発生し、溢水氾濫により家屋浸水や護岸の崩壊等、甚大な被害が発生した。</p> <p>このため大津恵川では、再度災害を防止するため災害関連事業により工事を実施している。</p> <p>この地域は、オオサンショウウオ等の水棲生物が生息していることを踏まえ、被災前の河川環境をできるだけ残すことを目的に改良計画を行っている。</p>
山口県 とほくけんちくぶかせんか 土木 建築部 河川課	<p>多自然川づくりアドバイザー制度を活用した河川改修について</p> <p>1 級河川佐波川水系剣川は、平成 21 年 7 月の梅雨前線豪雨により、洪水のみでなく、多くの溪流からの土石流により甚大な被害が発生したため、再度災害防止を図るため河川災害関連事業により河川改修を行った。設計にあたっては、「多自然川づくりアドバイザー制度」を活用し、剣川の景観や生息する生物に配慮した設計を行っているため、その施工事例を紹介する。</p>